

平成 24 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000054		
法人名	株式会社メイト		
事業所名	ホームとよまね2号館		
所在地	〒028-1302 岩手県下閉伊郡山田町豊間根第2地割111番地3号		
自己評価作成日	平成 25年 1月 4日	評価結果市町村受理日	平成25年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0393000054-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 25 年 1 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日のラジオ体操・下肢運動による自分で歩けること維持する支援に努めています。食事作りを皆で分担して行う他、食後の片づけを当番制として全員が関わられる仕組みを取り入れていきます。
自治会や保育所との定期的交流を通じて地域とのかかわりに努めています。
地域の特性を生かした季節の食材を自ら収穫し調理することにより季節感を味わえるよう努めています。
地域で使える新聞紙や箸入れなどを作業として取り入れ、地域に必要とされればホームに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表者の出身地であることもあって、地域との結びつきが強く、地域からの支援も力強いものがある。また災害時には臨機応変の支援等を行い、信望ある地域福祉の一翼を担う事業所となっている。利用者支援においては、生活のなかに手作業を取り入れ(新聞広告による折り紙、箸入れ)、さらに地域に還元する取り組みは評価される。当地域は町内で震災の被害を受けなかった数少ない地域の一つであり、仮設住宅が建設されている。今後、被災者の住居移転先として新たな街づくりの拠点になる可能性もあり、利用者の生き生きとした生活振りを地域に示すなど、これまで以上に地域とつながりのある運営が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : ホームとよまね2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月理念を全員で復唱し言葉だけでなく理念の意味を考える機会を設け(今回は24時間シート活用)実践につなげています	理念を実践の場でどのように展開するか職員間で話し合っている。現在、利用者一人ひとりを観察し、気になること、何度も繰り返す言葉の意味、背景など気づいたことを24時間シートに記入し、本人にとっての「安心」とは何かを確認する取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会会員として事業参加するとともに、おでんせ市(産直)へ毎週買い物に出かけながら地域の方々とお話したり、保育園と毎月相互交流しています	保育所、幼稚園、小学校との交流をはじめ、代表者の親戚から声がかかり、栗拾い、大根堀り等を行うなど、地域との交流はスムーズである。また手作業で作ったメモ用紙や箸入れなどは地域や食堂で使用されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と実際に接することで、理解や支援方法を見ていただけるよう、地域の方々に向けて生かしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂いた意見や情報で「すぐできること」から取り組み、地域で必要とされるホームとしてサービス向上に活かしていきたい(今回は箸入れ作成おこなっています)	多様な顔触れで構成され、具体的な意見や提言が得られている。行事等では車の手配やカラオケセットの提供等を受けている。最近では、冬場の活動に箸入れづくりの提案があり、折紙の要領で箸入れを折り、飾りを付けて近くの食堂に納め、喜ばれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や地域ケア会議などで情報交換しながら協力関係を築くよう取り組んでいます	町の国保介護課、地域包括センターと日常的に情報交換を行っており、円滑に連携している。地域ケア会議へ参加の際にも情報交流があり良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険指摘基準における禁止の具体的な行為を勉強するとともに、やむを得ない場合の拘束についても理解し、拘束しないケアに取り組んでいます	チェックシートにより確認、振り返りを行い、身体拘束に繋がる行為のないよう、また言葉による拘束が生じないよう、全員で確認し合いながら個別に応じてケアにあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法で定義する5つの虐待について再確認し、「漫然」をキーワードに注意を払い防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活支援員の毎月の訪問を通じて日常生活自立支援事業を学ぶと共に、弁護士より成年後見制度について詳しく学ぶ機会を持った		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の要約版を用いて、一番ご家族が心配されている退所について詳しく説明し、理解・納得が得られるよう図っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時における意見・要望の聞き取りや、運営推進会議への参加機会を設け運営に反映できるよう努めています	家族の来訪時に話し合う時間を設けている。主として利用者個々の生活についての確認や希望が多く、運営に反映されるような意見、要望は出されていないが、職員がブログをつくってホームの情報を掲載したところ家族家族が見て安心されたという有意義なこともあった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議時、一人一回の発言機会を設け意見・提案を運営に反映できるよう努めています	職員会議には代表者も出席し、率直な意見交換を行っている。全員が発言するよう心掛けており、勤務時間の変更、居室の加湿調整の工夫など積極的な意見が出され、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格に応じた給与・待遇が出来るよう職場環境・条件の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修とともに外部研修の機会を均等に設けるよう努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH沿岸北ブロックによる職員交換研修の場を設けるなどサービスの質の向上に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式Bシートを活用しながら、ご本人の見守り・傾聴に徹し、本人の思いを受け入れた後行動するよう関係づくりに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式Bシートに思いを記入していただき、その後もお会いするごとに不安や要望を聞き、関係作りに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	24時間365日支援している利点を生かし、必要としていう支援を見極め、その場で対応するよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活全般を利用者と共に行い、生活場面を一緒に過ごせるような関係を築いています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族宅へ皆で訪問し、畑の収穫や季節の果物収穫を行うなど、本人を含む全利用者を支える関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら墓参りや帰省を行うとともに、できるだけ住んでいた近くの商店へ買い物に出かけ知り合いとあえる機会を設ける支援に努めています	生家の近くに買い物に立ち寄る際に近所の人に声をかけられたり、産直をはじめ近隣の人達から親しく声をかけられるなど、新しい馴染みも増えてきている。また知人、友人、老人クラブの仲間が時折訪問し、交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グルーピング作業を行い、良い関係が保てる利用者同士を近くの席に配置し、関わり合い、支え合いができるよう支援に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、今後予想される事態に備えてのアドバイスや相談に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式Bシートを元に、本人の思いや意向の把握に努め、困難事例には24時間シートを用いて情報収集し検討しています	生活歴から興味のあるような話を話題にしたり、生活リズムや環境を聞きながら本人の思いや意向を確認するようしており、個別ニーズとして捉えた内容を整理し傾向を分析している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式Bシートを元に、把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌を元に職員からの情報により現状把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の課題分析で意見を出し合い、ご家族訪問時に希望や意向を聞き取り計画作成に努めています	介護計画に基づく短期・長期目標、サービス内容等の状況や課題を職員全員で毎月話し合っている。目標の変更を要する場合は、家族との話し合いを経て、職員会議でモニタリングのうえ変更しており、常に利用者の現状を共通理解しケアにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を全職員で情報共有しながら、良い実践を取り入れ、介護計画の見直しに努めています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	24時間365日支援している利点を生かし、必要としていう支援を見極め、その場で対応するよう努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊間根地区という地域の特性を生かしながら、地域に必要とされるホームとしての活動を利用者が行うことができるよう支援に努めています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院時にスタッフ同行するなど主治医との関係を密に保ちながら医療をうけられるよう支援に努めています	従前のかかりつけ医の継続受診を原則とし家族の通院同行としているが、家族の内陸部への避難生活などにより現在では職員の同行支援が増えている。通院結果は家族に報告するなど適切な受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護職いないため、山田町や地域の看護師に助言を求め、適切な受診や看護が受けられるよう支援に努めています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療相談室と連携を取りながら情報交換や相談に努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームのできることの限界について説明し同意を得ている、ターミナルについては行政を含めた医療連携体制の構築が不可欠であり行政の医療計画と歩調を合わせながら支援に努めています	重度化においては、医療行為が必要になった段階で家族とよく話し合ってから方針を出すことで利用開始時に家族と申し合わせている。また終末期対応は他ホームでの看取りの実例を聞くなどして、検討している状況である。	現在の利用者の重度化に備えて特に終末期については、介護状況等様々な状態と関係者の考え方により複雑に展開しえる要素があるので、可能な限り実例等により研鑽を積み重ねることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練を消防署の協力を得ながら少人数での定期的訓練を実施し、実践力を身につけるよう努めています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導訓練を消防署立会いのもと実施しているとともに、近隣住民と協力体制を築いています	緊急通報システム、近隣向けの非常ベルの設置、スプリンクラー等を整備している。またAEDが近くの地区集会所に配備され利用できるようになった。防災訓練は夜間の火災を想定した総合訓練を消防署立ち合いで年2回実施している。今後一層地域の参加協力を得るよう働きかけることとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お名前には「さん」付けて呼び、本人の思いや行動を初めから否定せず、見守りを主に努めています。また、居室入口に暖簾をつけ中が見えない工夫にも努めています。排泄の失敗等は素速く対応し本人の負担を除くよう努めています。	居室の入口に大きな暖簾を掛け、入室の際は声をかけて了解を得ている。失禁等があった場合には素早くトイレや浴室に行けるように設計段階から検討し、介護支援においても素早く対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ制限しない雰囲気づくりに努め、本人の思いや希望を現せる働きかける支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはあるものの、本人の希望に添った時間や作業を選べるような支援に努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水やヘアスプレーなど本人が今まで使用してきたものを使えるよう支援するとともに、定期的にスタッフによる散髪を行い身だしなみに努めています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分たちで育てた野菜、地域で取れた食材などを昔からの作り方を教えていただきながら一緒に準備し食べ、当番制による片づけを行うことにより全員が参加できるよう支援に努めています	多くの利用者が食事の準備が出来、魚をさばく人もいる。後片付けは当番制で全員があたっている。食事の準備等への全員参加は自立した生活を目指すうえでの原動力になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は個別記録しチェックするとともに、管理栄養士によるメニュー表チェックによる支援に努めています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師会の巡回指導を受け、一人一人の口腔ケアのポイントを教えていただき、毎食後実践に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を元に排泄誘導の間隔を把握し定期的に促し、夜間はゆっくり眠れるよう自立に向けた支援に努めています	居室でのポータブルトイレの利用を希望する人もいるが、全員チェック表により排泄パターンを把握し、自力で用を足せるよう見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、水分補給をこまめに促し、腸を動かす運動を行うとともに、昼食時にヨーグルト摂取、個別に黄粉牛乳を飲むなどに取り組むよう努めています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定表により声掛けするが本人の希望に添わない時は無理にいれず、時間や日程をずらし、また、入浴できない時は足浴を実施するなどの支援に努めています。また、入浴剤の使用や季節にあった(菖蒲湯など)で楽しんでいただいています。	隔日の入浴になっており、入浴時間は自由だが、殆どの方が夕食前に入っている。寝る前に入りたいとして、夕食後に入る人もいる。あまり入浴を好まない人は無理をせず、足浴や清拭で対応する場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動することを基本としながらも、眠気ある場合は時間を決めて休んでいただき、夜眠れるような支援に努めています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルの薬の内容を添付し、服用時にスタッフが手渡しで服薬確認に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式Bシートから生活歴等を把握し、支援に努めています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム庭・畑に自由に出れるように支援し、関係する3つの保育園にてかけるなどの支援に努めています	事業所周辺の散歩や隔日の買出し同行をはじめ、自治会や保育園等との交流など、外出の機会を増やすよう努めている。ドライブが好きな利用者が多く、希望を聞きながら出掛けている。遠野風の丘、川井のやまびこ館等が主なドライブ先である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に応じてお預かりしているお金をお渡しし、使えるような支援に努めています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物のお礼時に必ず本人にご家族へ連絡入れているとともに、写真入りの手紙を添えて元気な様子を伝えています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに利用者作品を展示するとともに、季節の花を一緒に飾り付けするなど居心地良く過ごせる工夫に努めています	木造づくりで南向きの天窓も大きく、全体が明るいホールである。冬期間は床暖房で程よい暖かさで利用者はのびのびとくつろいでいる。行事や保育園等との交流写真、利用者の作品等が飾られ、楽しい雰囲気のホールになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席配置は気のあった者同士を近くに置き、ソファでは自由に寛げる広々とした空間の工夫に努めています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣装ケースや仏壇など本人・家族の希望に添った配置を行い心地よく過ごせる工夫に努めています	清潔感のある明るい居室で、ベットの位置を変えたり、持ち込みの調度品や家族、行事等のスナップ写真を飾るなど、思い思いの部屋づくりをしている。なお掃除は職員が手伝いながら本人が行なっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレドアの色を変えるなど認識しやすく自立生活が送れるような工夫に努めています		